

はじめに

本教材は、Z会大学受験生向けコース・特講『大学受験スタートシリーズ』の「英語基礎」・「英語発展」・「東大英語」の3講座からそれぞれ1日分を抜粋したものです。

「英語基礎」

文法を基礎から確認する講座です。今回は特に基本的で重要な文法のうち「不定詞・動名詞」をとりあげています。

「英語発展」

記述式問題を中心に対策する講座です。今回は英作文をとりあげています。

「東大英語」

東大入試の攻略のポイントを解説し、入試問題に挑戦する講座です。今回は「自由英作文」をとりあげています。

この夏までに取り組んで欲しい内容をピックアップしています。受験勉強の後半に向けて確認をしておきましょう。

Contents

英語 基礎 (練習問題1日分)……………	2
英語 発展 (練習問題1日分)……………	10
東大 英語 (予習編1日分)……………	16

I. 不定詞

英語で「不定詞」と呼ばれるものには、「to 不定詞」と「原形不定詞」がある（ただし、to 不定詞のことを指して単に「不定詞」と呼ぶこともある）。

1. to 不定詞

「to 不定詞」とは 'to + 動詞の原形' の形のことで、以下のような使い方をします。

① 名詞用法

「…すること」という意味を表す。

名詞と同じ働きをし、主語 (S) や補語 (C) や目的語 (O) になる。

Ex. To play the violin is difficult. (バイオリンを弾くことは難しい。)

→主語になっている。

② 形容詞用法

「…する～」, 「…すべき～」, 「…するための～」などの意味を表す。

形容詞と同じ働きをし、名詞を修飾する。この時、to 不定詞は名詞の後ろに置く。

Ex. I have a lot of things to do. (私にはすべきことがたくさんある。)

→名詞の things を修飾している。

③ 副詞用法

「…するために」(目的), 「…して; …できて」(原因・理由) などの意味を表す。

Ex. I came here to see you. (私はあなたに会うためにここに来ました。)(目的)

Ex. I am happy to hear the news. (私はその知らせを聞いてうれしいです。)(原因・理由)

‘目的’ は in order to … や so as to … で表すこともできる。

2. 原形不定詞

S V O C の文で、C が動詞の原形になることがある。これを **原形不定詞** と言う。この形になるのは、V が **使役動詞** (make, have, let) や **知覚動詞** (see, hear, feel など) の時。

Ex. She made him carry her bag. (彼女は彼にかばんを運ばせた。)

Ex. He saw the boy enter the building. (彼はその少年がその建物に入るのを見た。)

II. 動名詞

動名詞は動詞の原形の語尾に -ing が付いた形で、「…すること」の意味を表す。名詞と同じ働きをし、主語や補語、目的語になる。

Ex. Walking is good for your health. (歩くことは体によい。)

Ex. I like singing. (私は歌うことが好きだ。)

III. to 不定詞と動名詞の使い分け

to 不定詞や動名詞が、動詞の目的語になる場合、使う動詞によって、to 不定詞か動名詞のどちらを使えるかに決まりがある。一般に、to 不定詞は未来に関することを表すことが多く、動名詞は習慣的なことや過去に関することを表すことが多い。

① to 不定詞は目的語になるが、動名詞はならない動詞

hope (…することを望む), decide (…することに決める), learn (…することを学ぶ) など。

Ex. I hope to see you again. (私はまたあなたに会えることを望んでいます。)

× I hope seeing you again.

② 動名詞は目的語になるが、to 不定詞はならない動詞

enjoy (…することを楽しむ), finish (…し終える), practice (…することを練習する), mind (…することを嫌がる) など。

Ex. He enjoyed playing volleyball. (彼はバレーボールをして楽しんだ。)

× He enjoyed to play volleyball.

③ 不定詞と動名詞のどちらを目的語にしても、意味がほぼ同じ動詞

begin (…し始める), start (…し始める), continue (…し続ける) など

Ex. Suddenly, the baby began to cry. (突然、赤ちゃんが泣き始めた。)

≡ Suddenly, the baby began crying.

④ 不定詞と動名詞のどちらも目的語になるが、意味が異なる動詞

remember to … (忘れずに…する), remember …ing (…したことを覚えている)

forget to … (…し忘れる), forget …ing (…したことを忘れる)

try to … (…しようとする), try …ing (試しに…してみる)

Ex. She remembered to lock the door. (彼女は忘れずにドアの鍵を閉めた。)

She remembered locking the door. (彼女はドアの鍵を閉めたことを覚えていた。)

練習問題 

〔 I 〕 指示に従って設問に答えよ。 (20点)

A : 次の各組の文がほぼ同じ意味になるように、空所に最も適当な英語 (1語とは限らない) を記入せよ。なお、もとの文と同じ構文にはいけない。(各2点)

1) He is so young that he can't do the job.
He is () the job.
()

2) He was happy that he passed the exam.
He was () the exam.
()

3) He painted the gate so that he could please his mother.
He painted the gate so () his mother.
()

4) She was so kind that she showed me the way.
She was kind () the way.
()

B : 次の各文のカッコ内の動詞を最も適当な形にして、意味の通る文にせよ。(各2点)

5) Don't forget (write) to Aunt Mary tomorrow.
()

6) I enjoyed (listen) to the classical music.
()

7) Would you mind (wait) here for a few minutes?
()

8) I can't read this letter without (remember) my father.
()

C : 次の各文の誤りを「誤」の欄に抜き出し、正しいものを「正」の欄に記せ。(各2点)

9) Tom was seen get off the bus by the teacher.
誤 () → 正 ()

10) I'm looking forward to go on a picnic at the seaside.
誤 () → 正 ()

〔 II 〕 指示に従って設問に答えよ。 (30点)

A : カッコ内の単語を並べ換えて、与えられた日本語に相当する英文を作れ。なお、文頭にくる語も小文字で示してある。(6点)

1) 君の仕事は、クラスの者たちを先導することだ。
(job / members / class / to / the / the / your / of / is / lead)

B : 次の日本語を英訳せよ。

2) 天気があやしくなったので、私は散歩をやめて宿に戻ることにした。(13点)

3) あんなばかなことを言ってしまって、私はとても恥ずかしいと思っています。(11点)

〔 I 〕

解答

- 1) too young to do 2) happy to pass 3) as to please 4) enough to show me
 5) to write 6) listening 7) waiting 8) remembering
 9) 誤 get → 正 to get 10) 誤 go → 正 going

解説

- 1) 「彼はとても若いため、その仕事はできない。」の意。上の文は so ~ that ... (あまりに~なので...である) の構文である。so ~ that S can't ... は「あまりに~なのでSは...できない」となるから、too ~ to ... (...するにはあまりに~だ: ~すぎて...できない) で言い換えることができる。したがって、ここは He is too young to do the job. とすればよい。
- 2) 「彼は試験に受かってうれしかった。」の意。「...してうれしい」という意味は、be happy + that 節 または be happy + to 不定詞 で表せる。したがって、ここは上の文の that 節を to 不定詞に書き換えればよい。文の主語と to 不定詞の意味上の主語はどちらも he で同じになるので、He was happy to pass the exam. とすればよい。
- 3) 「彼は母親を喜ばせられるように、門を塗った。」の意。so that ... は '目的' を表す表現なので、ここを '目的' を表す to 不定詞を用いた表現に書き換えればよい。空所の前に so があるので、so as to ... (...するために) を使い、He painted the gate so as to please his mother. とすればよい。なお、in order to ... も so as to ... と同意の表現であるから、He painted the gate in order to please his mother. と言うこともできる。
- 4) 「彼女は私に道を案内してくれるほど親切であった。→彼女は親切にも私に道を案内してくれた。」の意。「...するほど親切だ」は be so kind as to ... や be kind enough to ... と表せるが、ここでは She was kind ... で始まっているから be kind enough to ... を用いて She was kind enough to show me the way. とすればよい。
- 5) 「明日、忘れずにメアリーおばさんに手紙を書くのですよ。」の意。forget は目的語に動名詞と to 不定詞のどちらもとることができるが、意味が異なる。動名詞は過去のことを表すので、forget ...ing は「...したことを忘れる」という意味になり、to 不定詞は未来のことを表すので、forget + to 不定詞 は「...し忘れる」という意味になる。ここは tomorrow (明日) という未来を表す語があるので、to 不定詞にする。writing とすると、「明日メアリーおばさんに手紙を書いたことを忘れてはいけません。」となり、意味が通じない。

◀ I ① ③副詞用法

◀ I ① ③副詞用法

◀ I ① ③副詞用法

◀ I ① ③副詞用法

◀ III ④不定詞と動名詞のどちらも目的語になるが、意味が異なる動詞

- 6) 「私はクラシック音楽を聴いて楽しんだ。」の意。enjoy (~を楽しむ) は動名詞を目的語にとることができるが、to 不定詞を目的語にとることはできない。したがって、ここは動名詞の listening にする。ちなみに、「クラシック音楽」は classical music で、classic music とは言わない。
- 7) 「ここで2, 3分待っていただいても構いませんか。」の意。mind は目的語に動名詞をとり「...することを嫌がる」という意味を表す。目的語に to 不定詞をとることはできないことに注意。Would you mind ...ing? は「...することを嫌がりますか。」、すなわち「...していただけますか。」という意味になる。なお、Would you mind my ...ing? と言えば「私が...しても構いませんか。」という意味になることも覚えておこう。
- 8) 「この手紙を読むと必ず父のことを思い出す。」の意。can't ~ without ...ing は「...せずに~することはない→~すると必ず...する」という意味。この without は前置詞であるから、後にくる動詞は動名詞となる。したがって、ここは remembering とする。
- 9) 「トムはバスから降りるのを先生に見られた。」の意の文と考えられる。see は知覚動詞で、see + 目的語 + 動詞の原形 の形で用いられ、「~が...するのを見る」という意味を表す。しかしこの構文を受動態にすると、be seen + to 不定詞となる。したがって、get を to get に訂正する。なお、問題文を能動態に直すと The teacher saw Tom get off the bus. となる。知覚動詞には see の他に feel, hear, listen to ~, notice などがある。
- 10) 「海辺へピクニックに行くのを楽しみにしています。」の意。look forward to ~ は「~を楽しみにする」の意味で、to の後には動名詞や名詞がくる。この to は to 不定詞を作る to ではないので、look forward to + 動詞の原形 という形は誤りであることに注意。したがって、go を動名詞の going に訂正する。

◀ III ②動名詞は目的語になるが、to 不定詞はならない動詞

◀ III ②動名詞は目的語になるが、to 不定詞はならない動詞

◀ II 動名詞

◀ I ②原形不定詞

◀ II 動名詞

〔Ⅱ〕

解答

- 1) Your job is to lead the members of the class.
 2) The weather turned doubtful, so I decided to give up walking and go back to the hotel.
別解 Since the weather began to look threatening, I made up my mind to stop walking and to return to the inn.
 3) I feel very ashamed to have said such a silly thing.
別解 I am terribly ashamed that I said a stupid thing like that.

解説

1) 「君の仕事」は your job。「クラスの者たち」は、与えられた単語の中の members や class を用いて the members of the class と表せる。「～を指導すること」は名詞用法の to 不定詞 で to lead ～ とすればよい。

2) 〔配点の目安〕

「天気があやしくなったので」 → (5点)

「私は散歩をやめて宿に戻ることにした」 → (8点)

〔英文の組み立て方〕

「…ので」は「理由」を表すので、because や since を用いて表せばよい。あるいは、～, (and) so … (～なので…) という言い方でもよい。

〔語句・表現〕

- 「天気」は weather だが、本問では特定の場所・時間の天気を表すので the を付ける。「(天気が) あやしい」は doubtful, threatening, uncertain などの形容詞で表せ、「あやしくなった」は began to look + 形容詞 や became [got; turned] + 形容詞 のような形にすればよい。「天候」を表す it を主語にして、it began to look like rain のように表す方法もある。
- 「…することにする」 → 「…ことに決める」decide [make up one's mind] + to 不定詞。
- 「…するのをやめる」stop [quit; give up] …ing。

◀ begin + to 不定詞 (…し始める)

(look のような「知覚」を表す動詞が続く時は、普通 begin …ing の形にはしない。)

◀ quit や give up ～も to 不定詞は目的語にとらない。

添削例 1

Weather began to look doubtful, and so I decided

→ The weather (-1) ① → doubtful (-2) ②

stopping walking and going back to the hotel.

→ to stop (-2) ③ → (to) go ③

8/13点

- ① 特定の時の天気なので、定冠詞を付ける。
 ② look + 形容詞 で「～に見える」。look の補語は副詞にはしない。
 ③ decide + to 不定詞 で「…ことに決める」。decide は目的語に動名詞はとらない(2つ目の to は省略可)。



添削例 2

As the weather turned threatening, I made up my mind

→ Since (-0) ①

to stop to walk and return to an inn.

→ walking (-2) ② → the (-1) ③

10/13点

- ① as は多義語なので、「理由」を表すには because や since を用いる方がよい。
 ② stop + 動名詞 で「…するのをやめる」。stop の後に to 不定詞を付けると、「…するために立ち止まる」という意味になってしまう。
 ③ 自分の泊まっている特定の宿なので、定冠詞にする。

3) 〔配点の目安〕

「あんなばかなことを言ってしまった」 → (5点)

「私はとても恥ずかしいと思っています」 → (6点)

〔英文の組み立て方〕

「…して恥ずかしいと思っている」は、「感情の原因・理由」を表す to 不定詞を用いて表せる。to 不定詞の代わりに that 節を用いるのも可。

〔語句・表現〕

- 「あんなばかなこと」such a silly [stupid; foolish] thing あるいは a silly [stupid; foolish] thing like that。複数形で such silly things としてもよい。
- 「…して恥ずかしいと思う」feel [be] ashamed to have + 過去分詞。「恥ずかしいと思っている」のは現在で、「言った」のは過去だから、完了形の不定詞で時制のずれを表す。
- 「とても」は very の他に terribly など。

◀ feel [be] ashamed + that 節 や feel [be] ashamed of having + 過去分詞 でも可。



添削例 1

I am terribly shameful that I said such a fool thing.

→ ashamed (-2) ① → foolish (-2) ②

7/11点

- ① shameful は「(事が) 恥すべき [けしからぬ]」の意。「(人が) 恥ずかしいと思っている」は ashamed。
 ② fool は名詞で「ばか者」の意。



添削例 2

I'm very ashamed to say such nonsenses.

→ have said → nonsense

(-2) ① (-1) ②

8/11点

- ① 時制のずれがあるので、完了形で have said とする。
 ② nonsense は不可算名詞なので、複数形にはならない。

◀ nonsense n. 「ばかげたこと; たわごと」

ZELKA1-Z1J3-01

〔 I 〕 指示に従って設問に答えよ。(50点)

A : 次の日本語の意味を表すようにカッコ内の語句を並べ換えて全文を記せ。ただし, 3), 4) は不足している語が1語ずつあるのでそれを補うこと。また, 文頭にくる語も小文字で示してある。(30点)

- 1) これは学生が犯しやすい間違いです。(7点)
(are / is / this / make / students / to / mistake / a / apt)
- 2) 会議に向けての周到な計画をしたので, 交渉は成功した。(7点)
(be successful / careful / enabled / for the conference / negotiations / planning / to)
- 3) そのお年寄りの女性の体力では, スーツケースの持ち運びは無理だ。(1語不足)(8点)
(is / suitcases / the / weak / woman / carry / too / old)
- 4) 勉強に集中するために, スポーツをやめることにした。(1語不足)(8点)
(concentrate / decided / give up / I / in / my / order / sports / studies / to / to)

B : 次の日本語を英訳せよ。ただし, カッコ内の語を用いること。(20点)

- 5) 両親は私の妹に対して寛大というよりもむしろ甘い。(not / generous / indulgent)(10点)
- 6) 私には先生の言うことがわからなかったし, ジュディもそうだった。(neither)(10点)

〔 II 〕 次の日本語を英訳せよ。(30点)

- 1) 私は健康のため, どんなに天候が悪くても, 毎朝少なくとも1時間は散歩をすることになっている。(15点)
- 2) 今春, 彼は4年間の大学生活に終止符を打ち, 公務員としてスタートを切ることになっている。(15点)

ZELKA1-Z1J3-02

解答欄

〔 I 〕

1)

2)

3)

4)

5)

6)

〔 II 〕

1)

2)

〔 I 〕

解答

- 1) This is a mistake students are apt to make.
- 2) Careful planning for the conference enabled negotiations to be successful.
- 3) The old woman is too weak to carry suitcases.
- 4) I decided to give up sports in order to concentrate on my studies.
- 5) My parents are not so much generous as indulgent to my sister.
- 6) I couldn't understand what the teacher said, (and) neither could Judy.

解説

1) まず, This is a mistake (これは間違いです) という骨組みを作る。「学生が犯しやすい」の部分には「間違い」を修飾しているため、a mistake を先行詞とする関係代名詞節で表す。与えられた語句の中には関係代名詞はないが、目的格の関係代名詞が省略されていると考える。「…しやすい」は「…しがちである；…する傾向がある」と考えて be apt to …, 「間違いを犯す」は make a mistake でそれぞれ表せるので、関係代名詞節は (which) students are apt to make となる。全体で This is a mistake students are apt to make. となる。

2) 与えられた語句の中に動詞 enable(d) があることに注意する。enable は 'S enable O to …' の形で「SはOが…することを可能にする；SのおかげでOは…できる」の意味を表す。よってこの問題では、日本語を「会議に向けての周到な計画は、交渉が成功するのを可能にした。」と読み換えて英語にすることになる。「会議に向けての周到な計画」は careful planning for the conference, 「交渉」は negotiations。したがって、全体で Careful planning for the conference enabled negotiations to be successful. となる。ところで、～ enabled to be successful negotiations と書いてはいないだろうか。enable は (×) enable to 不定詞 という形はとれないので要注意。

3) 与えられた語句の中には日本語の「体力」や「無理だ」に相当するものは見当たらないが、too や weak があることから 'too ~ to …' (…するには～すぎる；～すぎて…できない) の構文を思い出そう。つまり、日本語を「そのお年寄りの女性は、スーツケースを持ち運びするには弱すぎる。」と読み換えればよい。つまり不足語は to で、全体で The old woman is too weak to carry suitcases. となる。

4) 「～をやめることにした」は「…することを決心する」の意味の decide to … と「～ (= 習慣など) をやめる」の意の give up ～ を使って I decided to give up ～ とする。「…するために」は与えられた語から in order to … のイディオムを用いる。問題は「～に集中する」の部分だが、動詞 concentrate を使って「～に (努力を) 集中する」の意を表すには concentrate on ～ と前置詞 on を使う。よって、in order to concentrate

◀ cf. be liable to …
(…しがちである；…しやすい)

◀ Check!

◀ cf. concentrate ~ on … (～ (= 努力・注意など) を… (= 目的・仕事など) に集中する)

on my studies で「勉強に集中するために」となる。したがって、全体で I decided to give up sports in order to concentrate on my studies. となる。なお、in order to … のかたまりを先に持ってきてよい。my を sports の前に付けて、give up my sports … concentrate on studies とするのはダメなのかと思う人もいるかもしれないが、スポーツは「スポーツ一般」と考えられるので無冠詞がよい。一方、studies は「自分がすべき勉強」という意味が込められているので my を付ける。

5) 全体の骨格は「AというよりもむしろB」で、語群に not があることから 'not so much A as B' の表現を用いる。

Ex. It's not so much a hobby as a career. (それは趣味というよりもむしろ職業である。) (OALD)

「～に対して寛大である」は be generous to [toward] ～, 「～に対して甘い」は be indulgent to [toward] ～ と表す



添削例

My parents are not ^{(-3) ①} generous to my sister but indulgent ^{(-0) ②} to her as much as I am.

7/10点

- ① 'not A but B' は「AではなくてB」の意。Aを完全に否定した内容になるので、日本語と文意がずれる。
- ② 「私の妹に対して」は indulgent にもかかるので文末に置くべき。

◀ Check!

6) 「私には先生の言うことがわからなかった」は I couldn't understand what the teacher said [the teacher's words]。「ジュディもそうだった」は「ジュディにも (先生の言うことが) わからなかった」ということである。これを neither を使って表すと、neither could Judy となる。この表現は 'neither + be 動詞 [助動詞] + 主語' の語順となる。

Ex. I never learned to swim and neither did they. (私は泳ぎを教わったことは一度もないし、彼らもそうだった。) (COBUILD)



添削例

I couldn't know what the teacher says, understand (-1) ① and neither did Judy. said (-2) ② could (-2) ③

5/10点

- ① この「わからなかった」は「理解できなかった」ということ。「知らなかった」の意ではない。
- ② 「言うこと」となっているが先生が言ったのは過去のこと。
- ③ 前の部分で助動詞は could を使っているのに合わせる。

◀ 否定文 [節] に続いて「～もまた…ない」という場合には neither [nor] を用いる。

◀ Check!

◀ Check!

〔Ⅱ〕

解答

- 1) For good health, I make it a rule to take a walk for at least an hour each morning no matter how bad the weather is.
- 2) This spring he is going to end (his) four years of college life and enter public service.

別解

- 1) In order to stay fit, I walk every morning at least for an hour even in the worst of weather.
- 2) This spring he is to work for the government after his four years at college end.

解説

- 1) ○この英訳にはいくつかのポイントが含まれているが、文全体の形を決めることになる「(毎朝) …することになっている」の訳し方が最大のポイント。「…することを習慣にしている」は make it a rule to … で表すことができる。また、単に現在時制で「習慣」を表することも可能だ。
- 「散歩をする」は take a walk または walk で表せる。
- 「少なくとも1時間」は at least for an hour または for at least an hour というような表現が適切である。
- 「どんなに天候が悪くても」の訳し方がもう1つのポイントになる。まず、no matter how … ; however … (どんなに…でも) を使えば、no matter how [however] bad the weather is [may be] と表すことになる。他の訳し方としては、「たとえ最悪の天候の中でも」と読み換えて、even in the worst of weather とすることもできる。
- 「健康のため」は for good health や for my health が簡単でよい。「健康を保つため」と考えれば、(in order) to maintain [keep ; preserve] my health や to keep [stay] fit といった表現も可能である。

〔配点の目安〕

- 私は散歩することになっている→ (4点)
- 健康のため→ (3点)
- どんなに天気が悪くても→ (5点)
- 毎朝少なくとも1時間は→ (3点)

添削例

For the sake of my health, I have a habit of walking for at least

an hour in every morning even if it's a bad weather.

→ トル (-1) ①

→ トル (-1) ②

13
/15点

- ① every morning で副詞句として用いる。前置詞は不要。
- ② weather は不可算名詞なので a はつかない。また形容詞で修飾されている時は the もつかず、無冠詞になる。

- ◀ worst *n.* 「最も悪いこと〔もの、人〕」
- ◀ fit *adj.* 「体の調子がよい」

◀ Check!

- 2) ○「…することになっている」という「確定した予定」の表し方が1つのポイント。これは be to … や be going to … で表現できる。
- 「～に終止符を打つ」は直訳すれば put an end to … であるが、これは嫌なことや悪いことを阻止して終わらせるニュアンスに用いられる。
- Ex. The new president is trying to put an end to the political corruption. (新しい大統領は政治腐敗に終止符を打とうとしている。)
- 「4年間の大学生活」は嫌なものではないはずだから、put an end to … はニュアンスとして不適切ということになる。ここは、単に「終了する」と解して end ; finish ; complete などを使うのがよい。
- 「4年間の大学生活」は four years of college life ; four years at college などと表せる。
- 「公務員としてスタートを切る」は「公務員になる」ということである。このような場合には enter (into) public service というのがよく使われる言い方である。「行政で働く」ということだから work for the government と読み換えてもよい。
- 「～に終止符を打つ」と「…としてスタートを切る」は He is (going) to end ~ and enter … と and でつなぐのが簡単。大学生活を終えた後に公務員になるのだから after ~ としてもよい。

〔配点の目安〕

- 今春彼は～ことになっている→ (3点)
- 4年間の大学生活に終止符を打ち→ (6点)
- 公務員としてスタートを切る→ (6点)

添削例

Next spring, he is going to finish his college life and

→ This (-1) ① four years of (-1) ②

become a civil servant.

→ begin his new life as (-0) ③

13
/15点

- ① next spring は「来春」のこと。
- ② 「4年間の」の訳脱。
- ③ 「スタートを切る」のニュアンスがやや物足りない。

◀ enter ~ *vt.* 「～(=仕事)に就く」

攻略のポイント

東大では、例年第2問で自由英作文問題が出題される。まず、一般的着眼点を確認しておこう。

一般的な着眼点

I. 条件設定の確認をきちんと行い、聞かれていることに答える。

東大の自由英作文問題では、さまざまなタイプの問題が出題される。会話の流れに合うように空所を埋める問題や、与えられたテーマについて英文を書く問題、与えられた絵の状況を自由に解釈して英語で説明する問題、日本語の対話文の主張と根拠を説明する問題などである。いずれのタイプの問題においても、問題の指示をよく読み、どのような内容を含めるべきかを正確に把握した上で書き始めることが大切である。

II. 「わかりやすく」「誤解なく」伝えることを最優先する。

表現に自信のない難しい語句や構文を使う必要はない。文法・構文の知識を正確に運用し、極力誤りの少ない英文を書くことが大切である。

また、自由英作文は発想力を問う試験ではないので、奇抜なことを書こうとせず、自分の使える表現で論理が明快な答案を作成したい。

III. 最後に「正誤問題」を解く時の「眼」で、単語の綴りミスや文法・語法のチェックを行う。

自動詞か他動詞かの区別は正しいか、時制や冠詞、名詞の単数/複数、itで受けているもの間違いはないか、など、日頃から英文を書く際にも注意しておこう。

学習にあたっては、実際に自分で書いたものを第三者にチェックしてもらうと効果的である。

今回のポイント：空所外の情報を活用、把握して、矛盾のない英文を書く！

今回は、与えられた英文の流れに合うように空所を埋めるタイプの問題を取り上げる。このような問題では、空所となっている箇所以外の情報を活用し、書くべき内容を把握した上で、矛盾のない英文を書くことが求められる。今回の問題を通して、「条件設定を確認すること」「問題指示に合った英文を書くこと」のコツを身に付けよう。

それでは、実際の東大の入試問題にチャレンジしてみよう！

東大入試に挑戦

次の英文は、授業でグループ発表をすることになった生徒同士の電子メールでのやり取りである。空所(1)、(2)をそれぞれ15～20語の英語で埋めて、全体として意味の通った文章にせよ。

From : Ken O'Hare
 To : Yoshiko Abe, John Carter
 Date : Thursday, January 31, 2008, 8:23 PM
 Subject : Our group presentation

Dear Yoshiko and John,

I'm writing this e-mail in order to ask you two if you have any idea about how we should cooperate in our group presentation for Ms. Talbot's class next week. Can I suggest that one of us should do some basic research into a contemporary issue such as global warming, the aging society, environmental pollution, etc., another write a short paper on it, and the third give a presentation based on the paper, representing the team? What do you think about my plan?

All the best,

Ken

From : Yoshiko Abe
 To : Ken O'Hare
 Cc : John Carter
 Date : Thursday, January 31, 2008, 9:12 PM
 Subject : Re: Our group presentation

Dear Ken,

Thank you for your message. Your suggestion sounds very interesting, but (1) _____
 _____ . So, I would rather suggest
 that (2) _____ .

Best wishes,

Yoshiko

From : John Carter
 To : Ken O'Hare
 Cc : Yoshiko Abe
 Date : Thursday, January 31, 2008, 10:31 PM
 Subject : Re: Our group presentation

Dear Ken,

I am happy with Yoshiko's suggestion about the presentation. Let's talk about it more tomorrow.

Best wishes,

John

(2008年度 東京大学 前期 2(A))

解答欄

(1)

(2)

解説

テーマの考え方

このような空所部分を英語で埋めるタイプの問題では、「攻略のポイント」でもふれたように、「空所外の情報を活用すること」と「空所に入れてみて矛盾のない英文を書くこと」が大切である。

まず、空所以外の情報を確認する。グループ発表の準備を進めている3人の生徒が、Eメールをやり取りしている。ケンがグループ発表で、調査、レポート書き、発表を、それぞれ1人が担当するという方法を提案している。ヨシコは肯定的に反応しつつも、別の提案をしている (Your suggestion sounds very interesting, but ...)。それを受けて、ジョンもヨシコに賛成をしているという流れである。

ヨシコのメールでは、空所(1)でケンの提案に対する反対意見を述べ、空所(2)でそれに代わる新たな提案をすればよい。

英文を書く際、空所(2)では、I would rather suggest that ... という形で始まっていることに注意したい。この場合、that 節の中の動詞は、原形 (仮定法現在) か 'should + 動詞' の形にしなければならない。

以下に「解答例」の全訳を示す。

(例1) (1)「あなたの言うやり方で仕事を分担するのは、非効率的かもしれないと少し思う」、(2)「まずテーマを決めて、その後で、調査とレポート書きと発表を共同でやる」

(例2) (1)「計画の各段階を3人で分けるべきではないと思う」、(2)「調査とレポート書きを共同でやり、それから誰が発表すべきかを決めるべきだ」

語句・表現

- 「(危惧して) ...だと思う」 I am afraid (that) ... : 相手の意見に反対する場合に表現がやわらかくなる。rather を加えるとさらにやわらかさが増す。
- 「Aの役割をBに割り当てる」 assign the role of A to B
- 「別々に」 separately
- 「～で協力する」 get [work] together on ~
- 「協力して...する」 get [work] together to ...

◀「～を決める」
decide on ~

解答例

(例1) (1) I am rather afraid that dividing the work in the way you suggest might be inefficient (16語)

(2) we decide on a theme first, and then work together to do the research, paper writing and presentation (18語)

(例2) (1) I don't think we should divide the stages of the project among the three of us (16語)

(2) we should do the research and writing together and then decide which one of us should present it (18語)